

## 第3回

# いこいの村なみえにおいて なみえ水素まつり を開催

4月10日(日)、いこいの村なみえにおいて「第3回なみえ水素まつり」を開催しました。

「水素シンポジウム」には、水素をエネルギー源としたライブを開催するなど環境に配慮した取組

を行うミュージシャンSUGIZOさん、相双地区で初となる定置式水素ステーション整備や、MIRAIのリース事業を展開している(株)伊達重機の前司昭博さん、町内のイベント活動を通じて、浪江町の魅力を全国へ発信している浪江女子発組合の播磨かなさん、環境問題や環境エネルギー分野に詳しい藤瀬里紗さんが参加し、水素社会を実現するための課題や展望などの意見交換を行いました。

SUGIZOさんからは「浪江町は震災や原発事故の被害が大き

く、世界に対しては負の町だというイメージから、今度はエネルギーにおいて世界をリードするという立場に変わっていく、これほどドラマティックな場所はないかな」と心強いメッセージがありました。



なみえ水素まつりは、幅広い人々へ普及啓発を目的としており、今回は水素関連施設を巡るツアーや、水素エネルギーで沸かしたお風呂に入浴ができたりなど、体験型のイベントとなりました。またMIRAIやキッチンカー、移動式水素ステーションなどの展示も行いました。



赤磐市から来ました木原です。ゼロカーボンシティの推進に関する業務を行っています。

水素まつりは着任後初めてのイベントでしたが、浪江町の水素



利活用に向けた取組への多くの期待とそれに関わる人々の熱意にとても刺激を受けました。ゼロカーボンの実現は町民の皆さま一人一人のご協力が欠かせません。私も皆さまとともに浪江町の未来を考えていきたいと思ひます。

そして、ここで得た経験を赤磐市でいかせるよう吸収したいと思ひます。

木原 可南子 さん (赤磐市・浪江町連携協定)

## 浪江町内で水素の最適な搬送につなげる実証事業が始まりました

世界最大級の水素製造拠点「福島水素エネルギー研究フィールド」(棚塩)で製造された水素を、浪江町内4か所で、効率よく運ぶシステムの実証実験が、4月10日(日)よりスタートしました。

この実証を通じてネットワーク間で水素製造や需要予測を勘案したエネルギーマネジメントシステム(EMS)を導入するのは「国内初」の取組となります。

浪江町は、町民の皆さんと一緒に「なみえ水素タウン構想」実現に向けて、ひとつずつ課題に向き合いながら、実証・解決することにより、ゼロカーボン達成に向けて取組んでいきます。



祝 開 所

既存の再エネを活用した水素供給低コスト化に向けたモデル構築・実証事業